

鉄道とまちづくりに関する講演会

基調講演 演題「鉄道整備と街づくり」

講師 日本大学理工学部土木工学科特任教授（(一財)計量計画研究所代表理事）
岸井隆幸氏

これまでの鉄道と街の関係

○鉄道の登場

- ・鉄道が運行を始めたのは、新橋～横浜間からであり、近代化の顔として政府からの後押しもあったが、その当時、鉄道は地域からはあまり好ましくない嫌悪施設とされていた。

○法整備と復興

- ・1889年に日本の近代としての最初の都市計画法制度といっても良い「東京市區改正条例」が施行され、明治政府は上下水道の整備や路面電車が走行できる道路を作った。
- ・1923年に関東大震災があり、その後1945年にも戦争による空襲などがあり、近代化した東京の街は2度にわたって破壊された。その都度、近代的な街を構築するため、帝都復興、戦災復興という名前で街の整備が進められた。

○鉄道と街

- ・復興を進める中で、郊外に私鉄が延びるようになり、渋谷、新宿、池袋などにおいて私鉄と山手線が接続した。また、渋谷では銀座線ができ銀座、上野、浅草を通るルートができた。次に丸ノ内線ができ新宿から東京駅に行きUターンして池袋というルートができた。銀座線と丸ノ内線ができたことで、東京駅周辺と渋谷、新宿、池袋が繋がり、そこへデパート等が移り、鉄道の整備によって郊外に人々が移り住むようになった。
- ・郊外の沿線開発が進む中で有名なのが田園調布等である。私鉄沿線に新しい形の開発を行った結果、人々が郊外に移り住むようになった。

鉄道と街の関係

○渋谷駅の復興事業

- ・今、渋谷が大きく変わろうとしている。1964年の東京オリンピックでは、メイン会場の国立競技場とサブ会場の駒沢公園を結ぶように国道246号線が整備された。ワシントンハイツ（現在の代々木公園）に選手村・NHKが整備され、文化的な雰囲気も醸し出した。
- ・今、その渋谷が大改造されている。この後に新宿、池袋が続こうとしている。

○鉄道と街の関係

- ・街が拡大することで発生する交通需要を鉄道が担い、鉄道ができることで街がさらに成長する。このように、鉄道と街は、「持ちつ持たれつの関係」になっている。

新しい鉄道と街

○羽田空港の周辺開発

- ・鉄道の整備を考える機関として、国土交通省の中に交通政策審議会がある。この審議会では鉄道の整備だけでなく、駅と街の一体的な整備についても議論している。
- ・東京に来たことがない外国人の東京のイメージは、「遠い」、「ストレスが多い」、「混んでいる」といったものであるが、東京に来た外国人は良いイメージを持っている。我が国の発信力の問題でもあるが、このギャップの解消には訪日外国人の SNS の力が大いに役に立つ。
- ・羽田空港周辺では、先端産業拠点・クールジャパンの発信拠点やホテル・複合商業施設が建設中であるが、私自身これらは空港の中にあると言った方が良いと思う。「空港機能が日本では多様になっている」という新しい空港像を来年のオリンピック、パラリンピックで世界に訴えられれば良い。

○羽田空港へのアクセス

- ・交通政策審議会では羽田空港へアクセスする路線として、二つの路線を取り上げている。一つは J R 羽田空港アクセス新線、もう一つは、本日の話題である新空港線である。
- ・現在、羽田空港へアクセスする路線として京急線とモノレールがあるが、モノレールはすでに開業から 50 年以上経っている。いずれモノレールの抜本的な改修が必要なことを念頭に置きつつ、更に羽田空港へのアクセスをしっかりと整備した方が良いと話をしてきた。

○羽田空港と品川とリニア新幹線

- ・2000 年以降に大きく動いたのが羽田空港の国際化とリニア新幹線である。リニア新幹線で品川が大きく変わる。現在、駅勢圏人口は 3500 万人位であるが、大阪まで繋がると 6500 万人位となり、これほどの人達が 1 時間半で集まれるのは世界的に見ても稀である。大量のしかも質の高い消費者を抱えている品川は、東京、日本を引っ張る場所になるのではないかと、またそのようにあるべきと考える。
- ・リニア新幹線が整備されると関西と東京を結ぶ飛行機便が少なくなる可能性があるが、その分、国際線に展開できるようになり、羽田空港の国際化が更に進む可能性がある。

○蒲田のポテンシャル

- ・蒲田駅は、品川に近く、羽田空港から一番近い J R の駅である。周辺にはホテル、飲食店も多く、京浜工業地帯の産業の拠点であり、大田区南部の生活の拠点でもある。その蒲田に新しい鉄道が加われば、空港へのアクセス性、都内への利便性も一段とよくなり、街も変わる。
- ・今、J R 蒲田駅と京急蒲田駅があり、その周辺には商業系の集積があるが、このような地域に今後どのような機能を加えてゆくか、この機に考える必要がある。大手町でも金融の新しい企業、ICT を使ったベンチャー企業を一生懸命呼び込んでいる。常に新しいアイデアをいち早く取り込まなければ世界には勝てない。

- ・大田区でも企業を増やそうとしているが、残念ながら大きな床を持っているビルは多くない。それは渋谷も同じであったが、渋谷は再開発が進み床を提供できるようになり、グーグル、DeNAなどのIT系の企業が続々と入った。大田区にもいろいろな企業がいて、さらに大きくなる企業や若い企業もある。地域で互いに支えあい、場所を提供しあい、可能性を高めていくことが必要である。

○みんなが街に出てくることに価値がある

- ・一方で、今は、クリック一つで物が届くので、人々が街に出る機会が減っていることを我々は懸念している。コワーキングスペースを設置し、少し長い時間街に滞在してサービスを受けながら新しいものを探す、そういった機会を地域として提供できないだろうか。多くの人に来てもらって楽しさを分かってもらおうと、そこでお金も落ちることになる。そういうことがこれからの社会では必要になると思う。
- ・「みんなが街に出てくることに価値がある」という認識を持つことはこれから非常に大事である。こうしたサービスの問題は行政だけでは解決できない。多様なニーズに対して的確に対応するのは民間企業の方がはるかにうまいし良いものができる。街づくりを行政がすべてやるという時代は既に終わった。始めから公民連携でやっていく、PPP（パブリックとプライベートがパートナーシップでやる）を先駆的にやっていく時代になっていくと思う。

○街づくりの先進事例

- ・アメリカ、ヨーロッパでは、ボラードが上がったり下がったりすることで時間帯により歩行者空間になったり、バスとタクシーだけが走ったりできる工夫がある。
- ・コペンハーゲンでは、地下鉄の駅前で自転車が煩雑に放置されていたが、駐輪施設の場所を若干切り下げたことで自転車の置き場が明確になり、視界も広がった。
- ・池袋の南池袋公園、丸の内仲通りでは、芝生を敷くことで多くの人々が集まるようになった。ちょっとした工夫、デザインでも街は変わるので、街ぐるみで良くしていこうという姿勢が大事である。
- ・空港近くの駅はそんなに無いので、羽田空港という場所の魅力を高めるようなことをやっていただくことが、大田区だけでなく日本の魅力を高めることにつながる。

最後に

- ・来年の東京オリンピックパラリンピックには多くの方がお越しになるので、世界にアピールする良いチャンスである。今や皆さんのスマホは世界につながっている時代なので、日本の良さを知っていただき、一人一人ファンになって帰っていただきたい。蒲田の地域、大田区がさらに発展するためにも大田区らしい取り組みをみんなまで話し合っていきたいと考えている。